

第二部 だいにぶ 第三話 やぐもじんじゃ 八雲神社のご威光 いこう

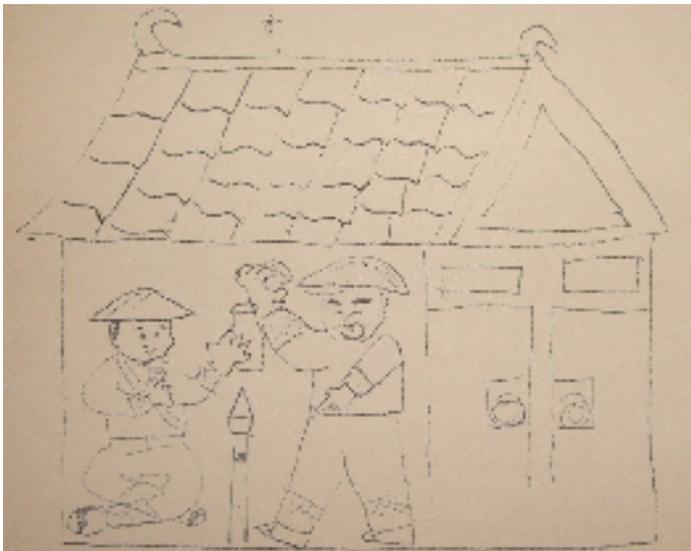
昔々、経塚山にある八雲神社には、天王様と言われる方が、おいでになりました。また、そこには、たくさんのお客が来られました。毎日、海や北潟湖で漁業を楽しみ、酒をくらって暮らしていました。

ある日のことでした。沖合に一隻の舟が通りかかった

時のことです。その日も、酒をくらって、気分が良くなって

いた天王様は、ちよつと遊んでやろうという気になって、

こう言つたそうです。



「よし、あの舟で遊んでやれ。」

そして、人間にはまねのできない魔法の術を使って、その舟を

ゆらしたり、止めたり、あげくのはては、くるくる、くるくると、時計の針

みたいに回してしまいました。舟に乗っていた人々は、おおさわぎです。

これを見た家来たちは、

「これはおもしろい。」

と、口々に言って、楽しんでいました。

そのことが、きっかけとなって、通りががりの舟はもちろん、北陸街道（福井あたりから、加賀の
たちばな峠までの道）を通る人までも、くるくると回したり、動けなくしたりして、こまらせました。



こまりにこまった人々は、この恐ろしい魔法を使う天王様のことで集まり、

「こまったもんだ。どうにかならないものか。」

と、相談を始めました。そうしていると、そこに、一人の旅人が通りかかりました。そして、その旅人は、こう言ったそうです。

「天王様に、おくり物をすればどうだろう」

ってね。村人たちは、

「それはいい考えだ。一度おくり物を持って行こう。」

と言い、さっそく安全に通行できるように、おくり物を持って、お参りに行きました。

すると、お参りに来た舟は、帆を見せて通れば何もされず、北陸街道を通る人は、通る時に、

「安全に旅ができますように、お願いします。」

と、頭を下げれば、安全に通れるようになりました。

それから何年かたちました。天王様は、再び通行人いじめを始め、人々は、またまたこまりました。

今度は、三国や加賀の舟持ちが、北潟の村人に、

「お金を出しますから、天王様のいる八雲神社を、経塚山から海や海道が見えない所にうつしてください。」

と、頼みました。

北潟の人々は、食べ物やお酒をたくさん八雲神社におそなえして、天王様たちが、酔って眠っている間に、神社の場所を変えたそうです。

やぐもじんじゃいまばしよ
八雲神社が今の場所にあるのは、そういったわけがあるんですね。

いま、きょうづかやまやぐもじんじゃあと
今、経塚山の八雲神社の跡は、どうなっているのでしょうか。

いちどしら
一度調べてみてください。